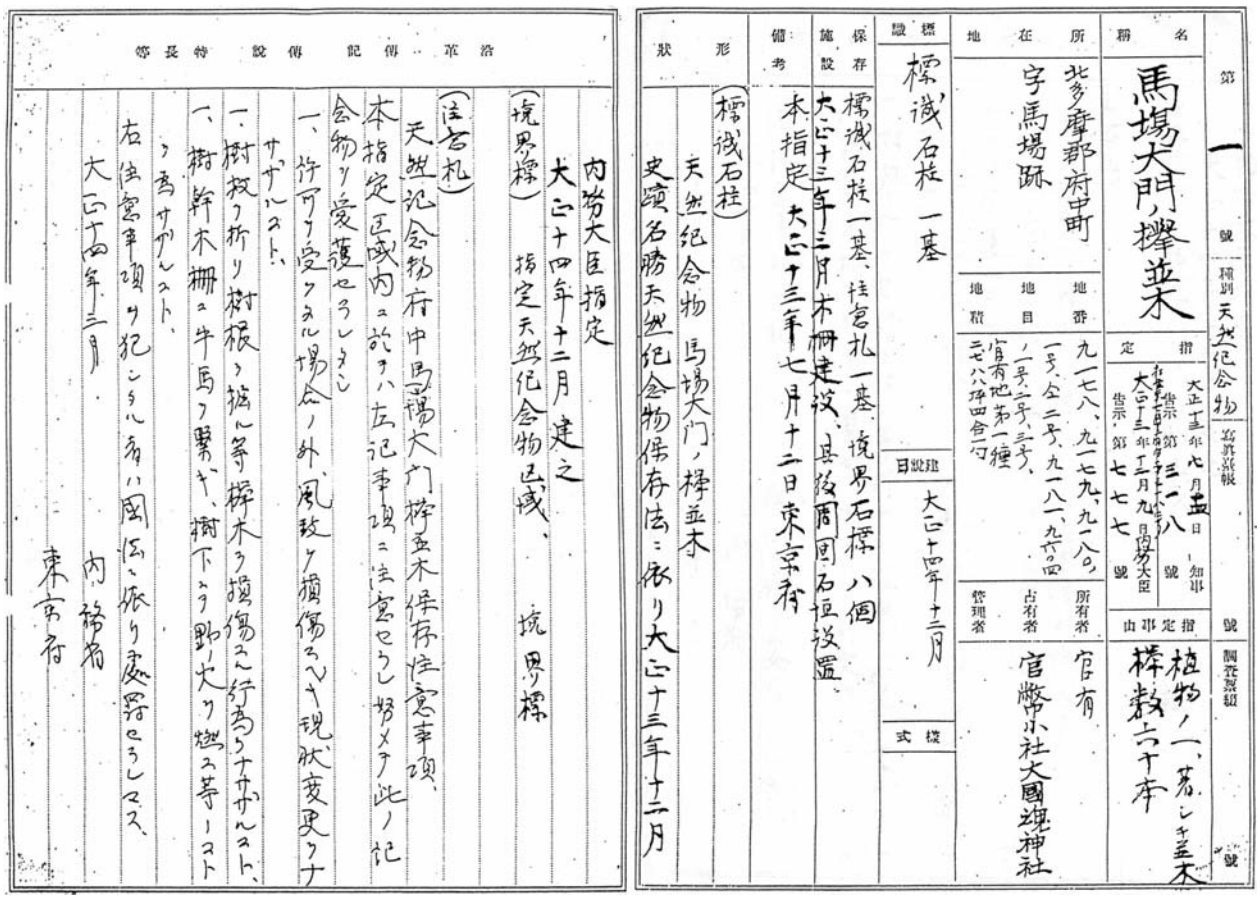
資料-2　「天然紀念物」指定概要



第一號　種別 天然紀念物　名勝旧蹟帳

名称：馬場大門欅並木

所在地：北多摩郡府中町字馬場跡

指定：大正十五年七月五日 告示第三一八號 知事
昭和十年十二月十六日 文部大臣 大正十三年十二月九日 告示第七七七號

地番：九一七八、九一七九、九一八〇、一号、仝二号、九一八一、九一八〇の四ノ一号、二号、三号、
地目：官有地第一種
地積：二七八坪四合一勺

所有者：官有
占有者：官幣小社大國魂神社
管理者：

指定由：植物ノ一、著シキ並木
樹齢六十年

調査報告：

標識：標識石柱一基

建設日：大正十四年十二月

式樣：

保存施設：標識石柱一基、注意札一基、境界石標八個
大正十三年三月木柵建設、其後周囲石垣設置、

備考：本指定 大正十三年七月十二日 東京府

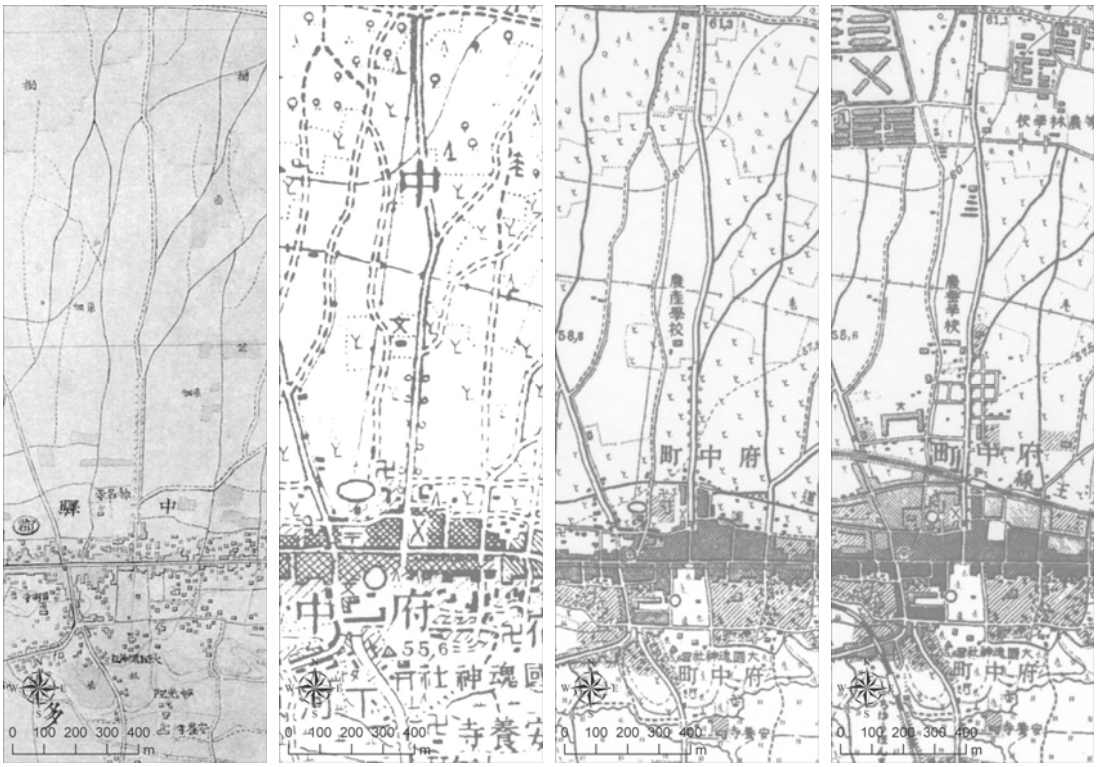
形状：（標識石柱）
天然紀念物 馬場大門ノ欅並木
史蹟名勝天然紀念物保存法ニ依リ大正十三年十二月

沿革・伝記・傳説・特長等

内務大臣指定
大正十四年十二月 建之
（境界標）指定天然紀念物区域、境界標
（注意札）
天然紀念物府中馬場大門欅並木保存注意事項、
本指定区域内ニ於テハ左記事項ニ注意セラレ努メテ此ノ記念物ヲ愛護セラレタシ
一、許可ヲ受クベキ場合ノ外、風致ヲ損傷スベキ現状変更ヲナサザルコト、
一、樹枝ヲ折リ樹根ヲ掘ル等樹木ヲ損傷スル行為ヲナサザルコト、
一、樹幹木柵ニ牛馬ヲ繋ギ、樹下ヲ野火ヲ焼ク等ノコトヲナサザルコト、
右注意事項ヲ犯シタル者ハ国法ニ依リ処罰セラルベシ、
大正十四年二月　内務省
東京府

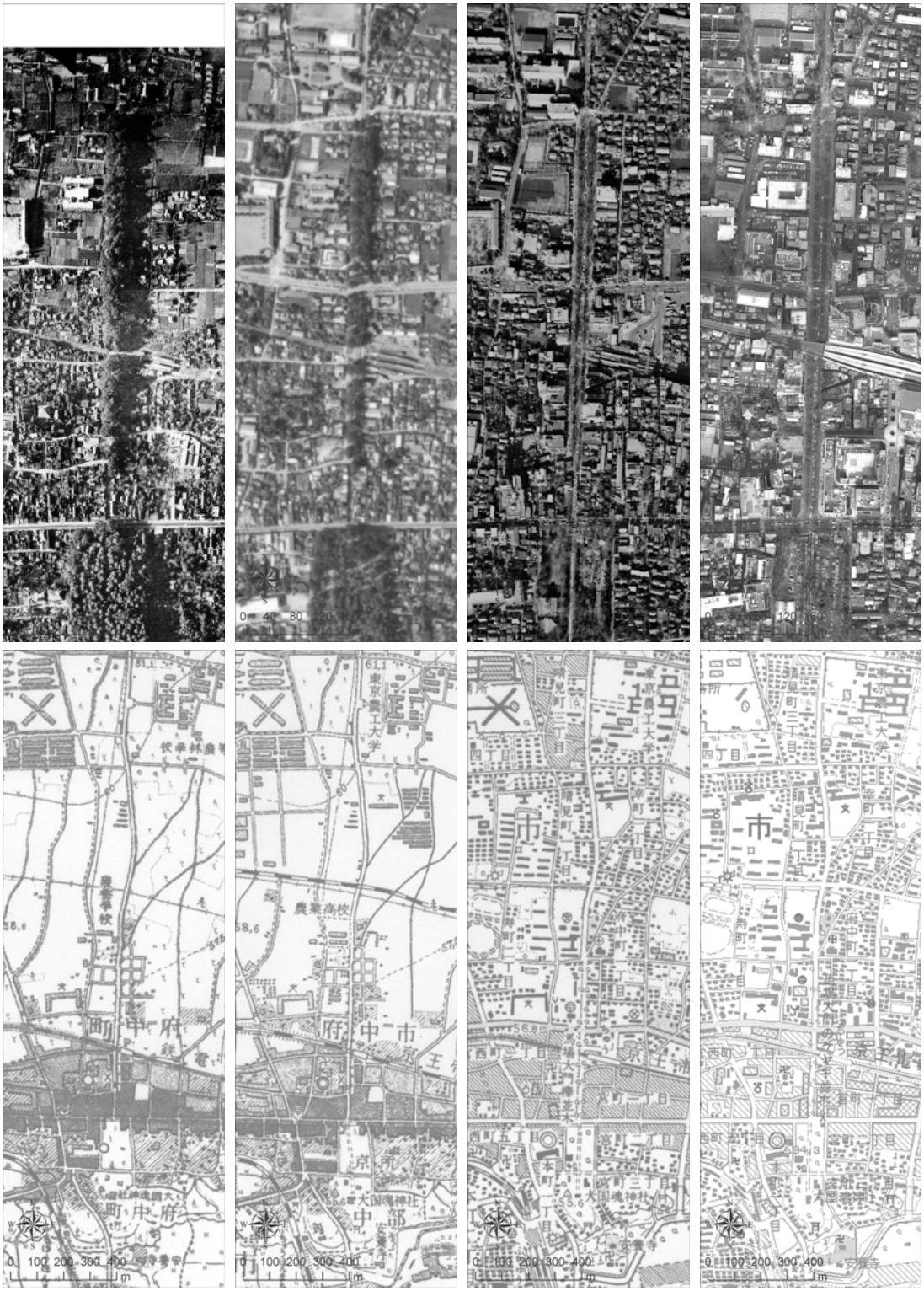
図 4-2-1　「天然紀念物」指定概要

資料-3　ケヤキ並木周辺の土地利用の変遷



明治 14 年　　明治 45 年　　大正 10 年　　昭和 5 年

図 4-3-1　明治から昭和初期までのケヤキ並木付近の周辺土地利用の変遷



昭和 20 年頃　　昭和 30 年頃　　昭和 50 年頃　　現在

図 4-3-2　昭和 20 年代から現在までのケヤキ並木付近の周辺土地利用の変遷

資料-4　ケヤキ並木の樹種構成とサイズ別本数

表 4-4-1　樹種別にみた樹木本数と割合（平成 19 年 3 月現在）

No.	科名	種名	学名	本数		
				西側	東側	合計
1	カバノキ科	イヌシデ	*Carpinus tschonoskii*	18 本	20 本	38 本
2	ブナ科	クヌギ	*Quercus acutissima*		1 本	1 本
3		コナラ	*Quercus serrata*	2 本	1 本	3 本
4	ニレ科	ムクノキ	*Aphananthe aspera*	3 本	1 本	4 本
5		エノキ	*Celtis sinensis* var. *japonica*	1 本	3 本	4 本
6		ケヤキ	*Zelkova serrata*	74 本	78 本	152 本
7	クスノキ科	クスノキ	*Cinnamomum camphora*	1 本		1 本
8	バラ科	イヌザクラ	*Prunus buergeriana*	1 本		1 本
9		サクラ類	*Prunus* sp.	2 本		2 本
10	カエデ科	トウカエデ	*Acer buergerianum*	2 本	6 本	8 本
11	クロウメモドキ科	ケンポナシ	*Hovenia dulcis*	1 本		1 本
計	7科		11種	105 本	110 本	215 本

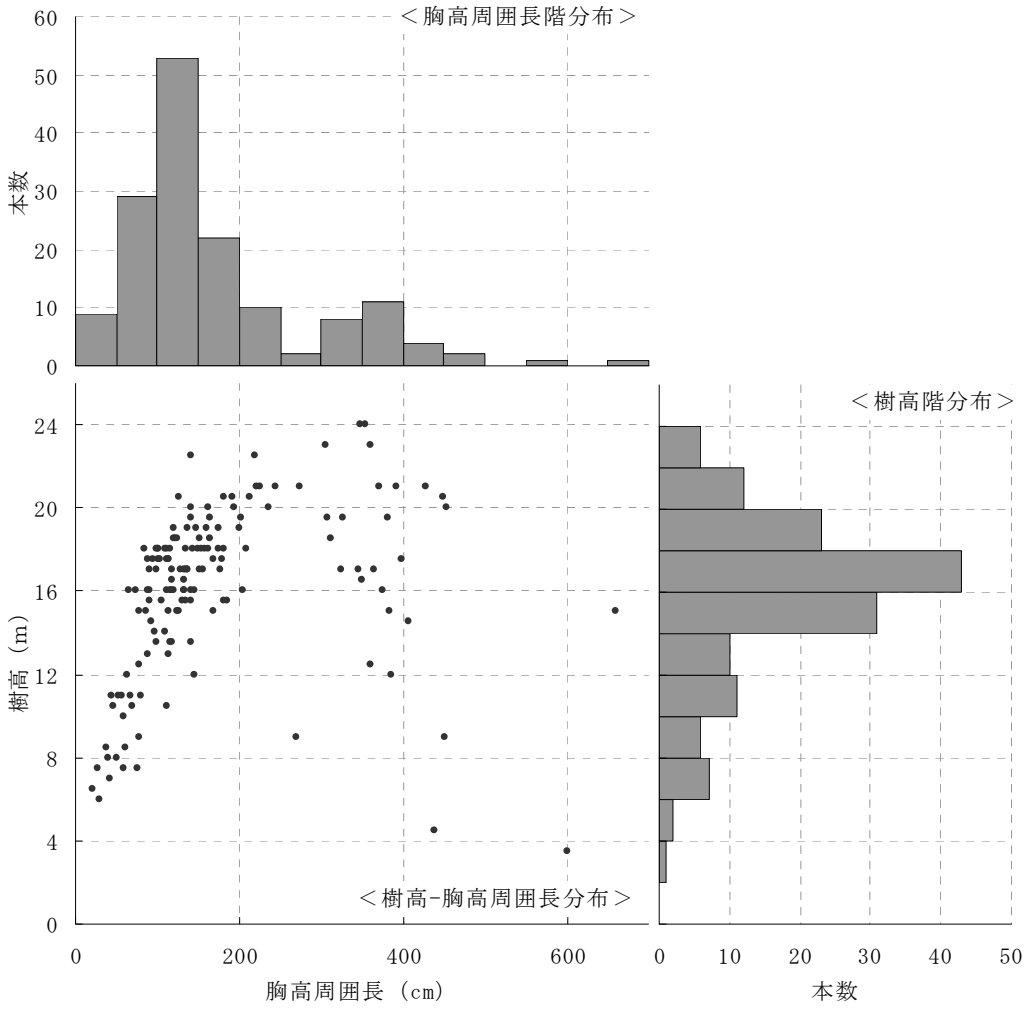


図 4-4-1　ケヤキのサイズ別本数（樹高-胸高周囲長分布及び階分布）

資料-5　生育状況の類型化の視点

表 4-5-1　生育状況タイプの区分に関わる視点

生育状況タイプ	腐朽	幹･枝の切断	樹冠の位置	樹形		個体サイズ	個体数
Type Ⅰ	枯死						4
Type Ⅱa	あり	非常に顕著	林冠	異常	切断	大	2
Type Ⅱb		顕著					7
Type Ⅱc		やや顕著					2
Type Ⅲ	なし			やや異常			13
Type Ⅳa		軽微	林冠下		上方被圧	小	5
Type Ⅳb				ほぼ正常	－		14
Type Ⅴ			林冠	やや異常	側方被圧		11
Type Ⅵa				ほぼ正常	－		92
Type Ⅵb					－	大	2

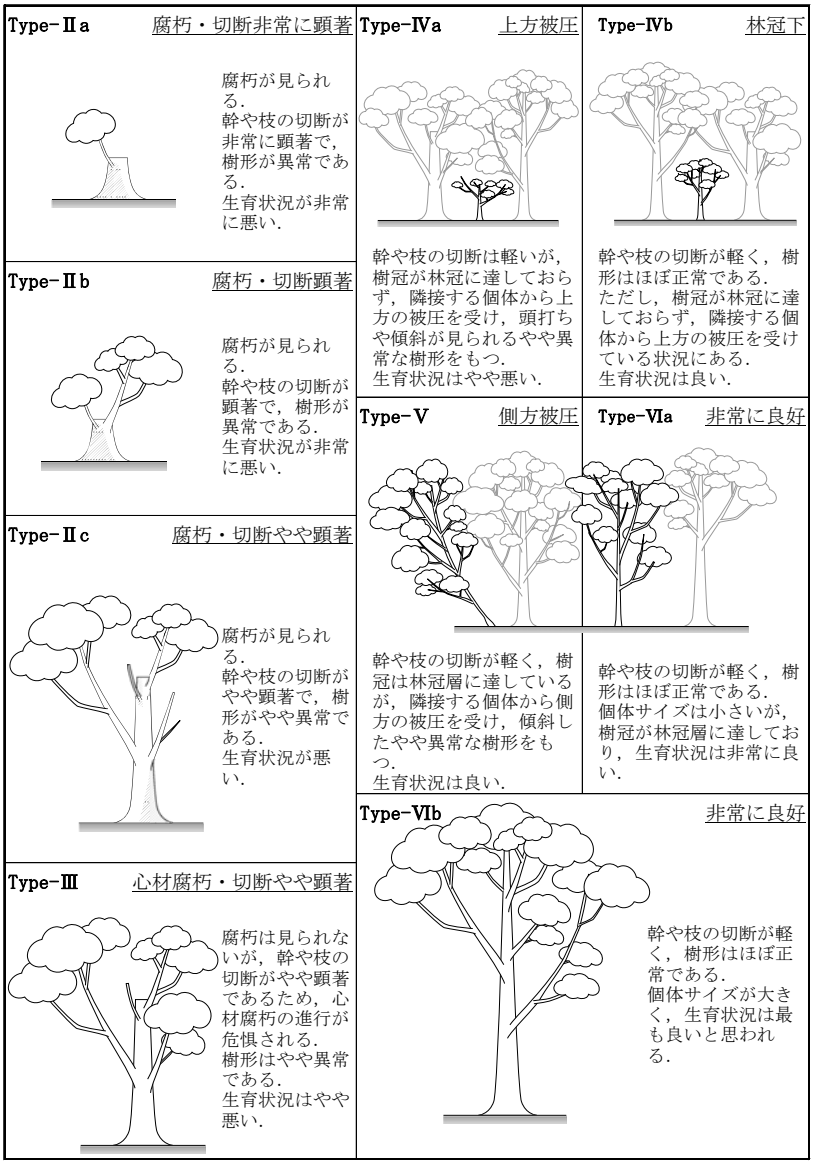


図 4-5-1　生育状況タイプ区分

資料-6　ケヤキ並木の立地環境に関わる現況

表 4-6-1　ケヤキ並木の立地環境に関わる現況

項目	現況
土壌の物理性等	・　石垣内の盛土は、全般に乾燥しており、森林や畑地の土壌と比べるときわめて固相率が高く堅い土壌であり、樹木の根系の生長に適した物理環境ではありません。 ・　一般に、都市域の土壌は森林土壌に比べアルカリ性が強いことが知られていますが、ケヤキ並木の盛土も、pHが高く、都市土壌的な性質が強いことがいえます。 ・　ケヤキ並木の盛土土壌は、乾燥して、水分の保持能力が小さく、森林土壌のような団粒構造も未発達なため、微生物の活動が不活発で、有機物の分解が進みにくいと考えられます。 ・　盛土中での根系の発根の多少は、盛土土壌の物理性・化学性との関連はほとんどみられませんでした。
水環境	・　植え枡内の土壌の体積水分率は場所によるばらつきが大きく、全体に乾燥した土壌環境下におかれています。 ・　盛土表層では乾燥し、堅い旧地表面の上部で最も水分率が高くなる傾向にあります。 ・　植栽枡のサイズと土壌水分との関連は認められませんでした。 ・　灌水によって雨の降らない期間の水分率が一定以上に維持されていましたが、その効果が及ぶ範囲は、盛土内のホース周囲のごく狭い範囲に限られ、ヘデラの育成には効果があるが、ケヤキなど樹木の根系に水分を供給する効果は小さいと考えられます。 ・　まとまった降雨では、地下への水分浸透がみられたものの、それ以外の一回の降水量が少ないほとんどの雨は地下への浸透量は少ないことがわかりました。このことは、盛土土壌が極端に乾燥していること、ヘデラ類が少量の降雨を盛土地表近くで消費し地下への水分浸透を妨げていること等に起因するものと考えられます。 ・　盛土中での根系の発根の多少は、盛土土壌の水環境との関連はほとんどみられず、樹木の衰退度や樹齢に大きく依存していると考えられました。
石垣	以下の理由により、石垣設置が樹木衰退の主要因になっているとは考えにくいが、樹木の肥大生長や根系生長の阻害や設置時の根系切除の可能性などがあり、慢性的な影響を与えている可能性は高い。 ・　樹木サイズとの関係を見ると、石垣に近いあるいは接している個体のほとんどが非常に大きな個体である。 ・　また、植栽枡設置にあたって大きな樹木個体を枡に納めるように枡の配置を検討し、樹木サイズに対して植栽枡が小さいことから、結果として大きな個体が石垣に接するようになっている。
植栽枡	以下の理由により、植栽枡のサイズと樹木の生育状況との関連性はみられませんでした。 ・　樹木の生育状況は石垣設置前からあまり変化がなく、植栽枡の線形やサイズが平成 7 年に変わったことが、樹木の生育状況に関連しているとは考えにくい。 ・　ケヤキの根系の主要な部分が、盛土部分より下部の元地盤に発達していて、盛土部分の水分条件等が直接的に樹木の生育状況に関連しているとは考えにくい。

資料-7　ケヤキ並木付近の土地利用

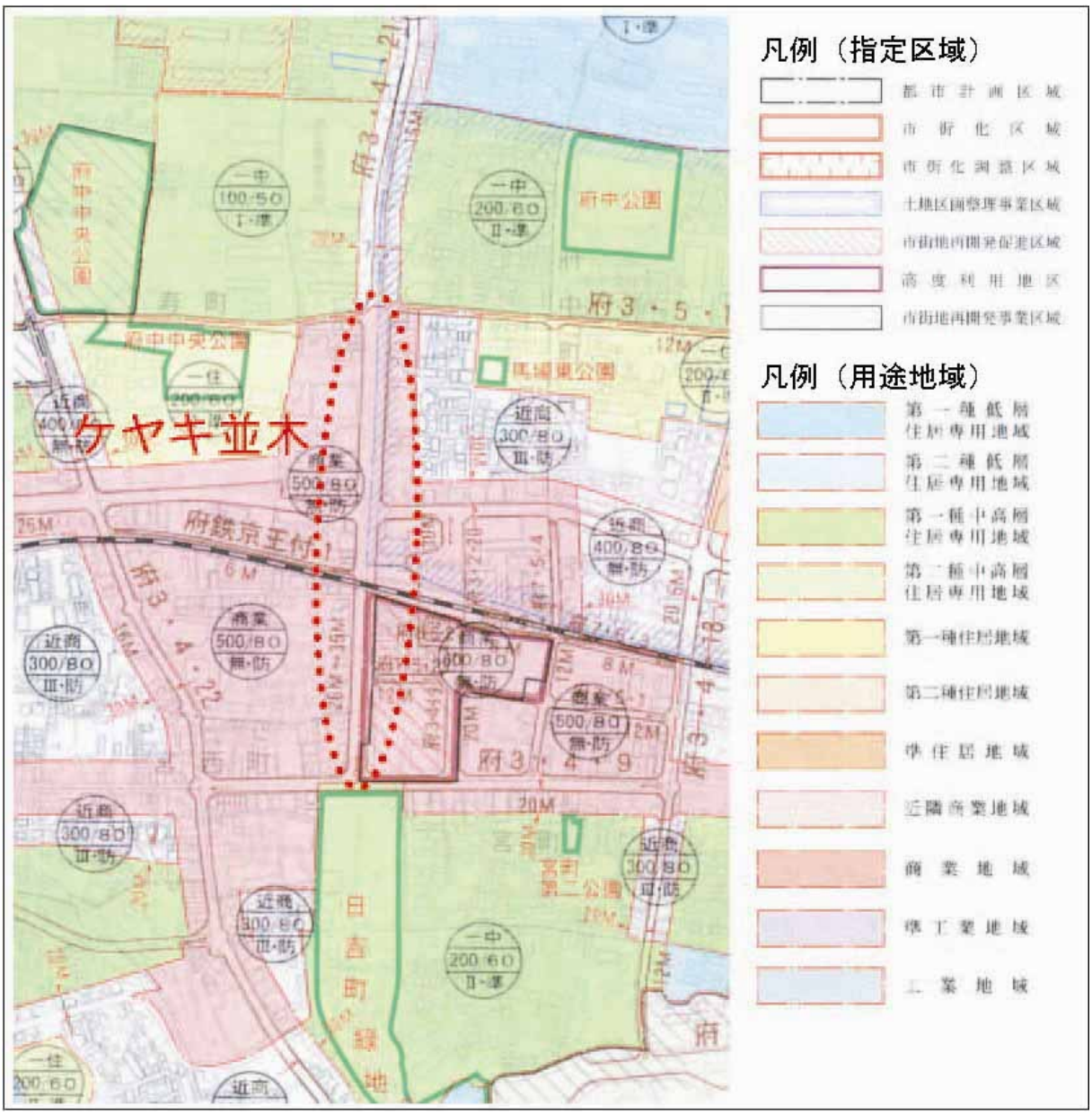


図 4-7-1　ケヤキ並木付近の土地利用（『府中市都市計画図 H18.2』より）

資料-8　ケヤキ並木付近の地番図

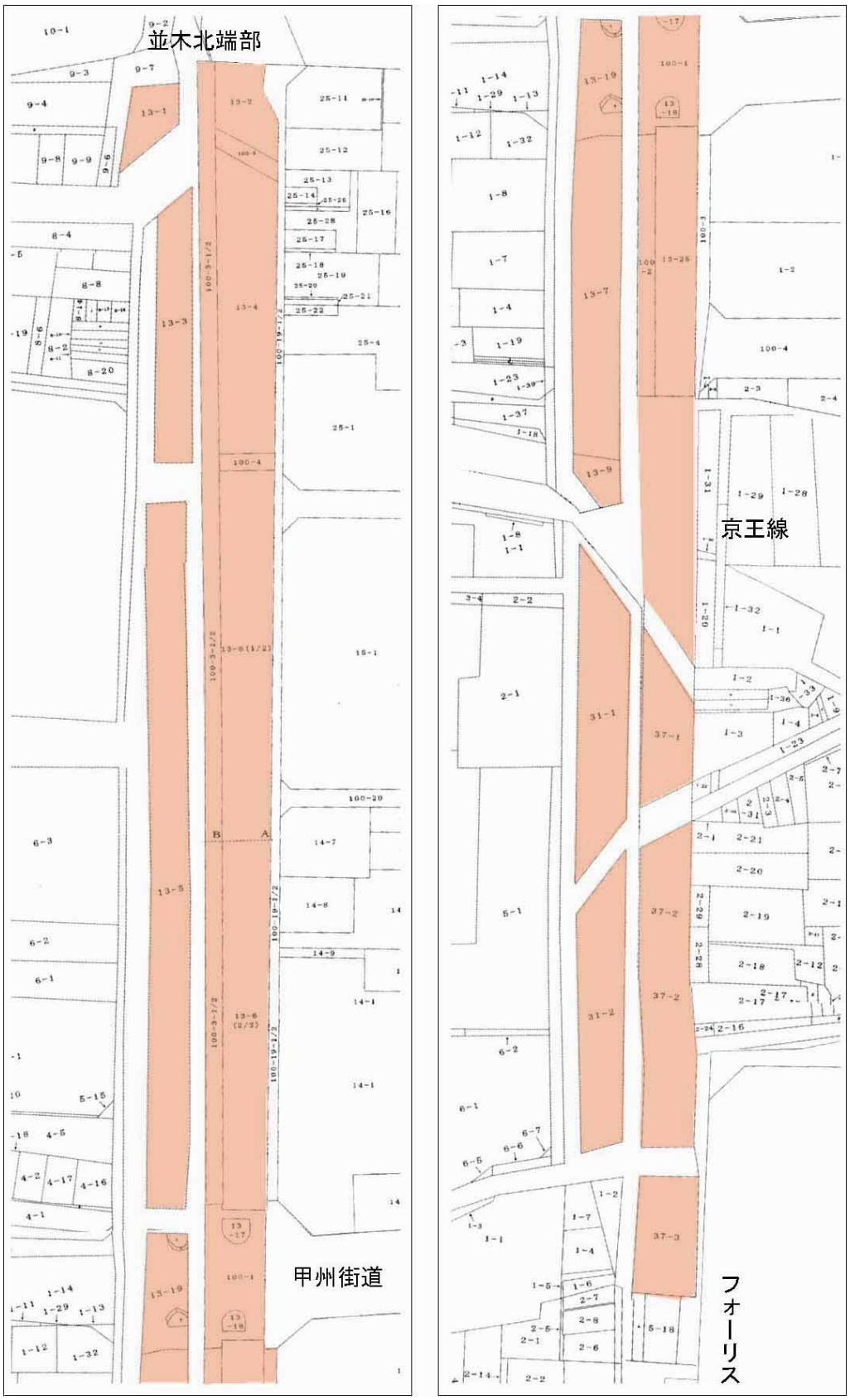
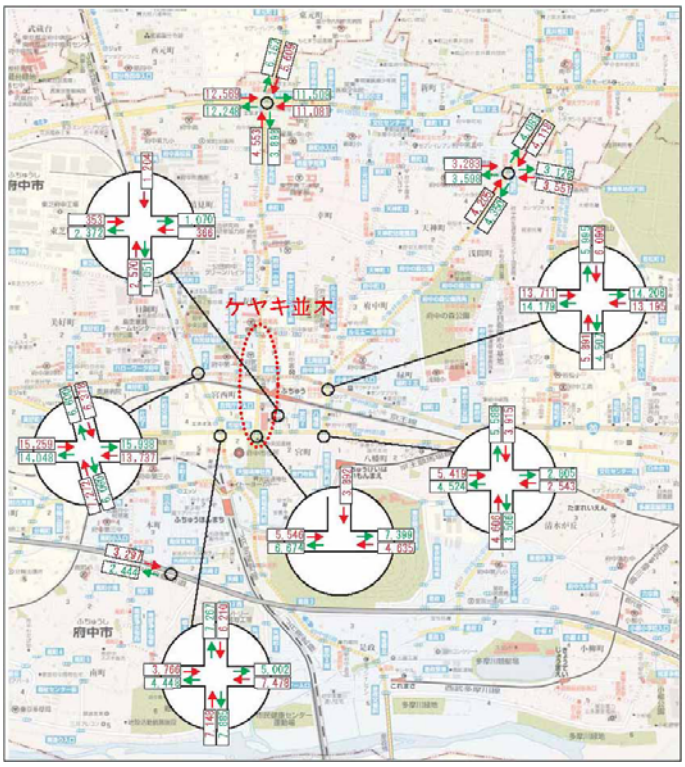
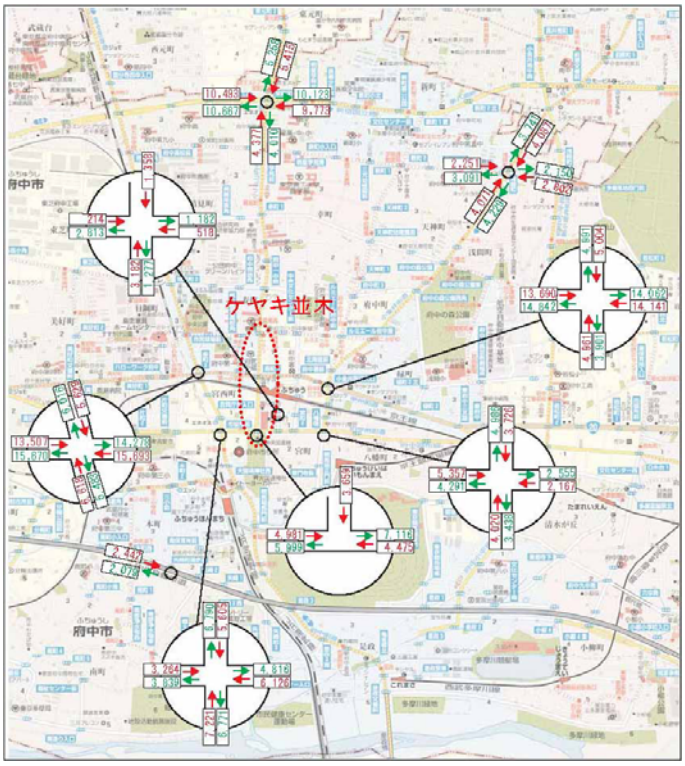


図 4-8-1　ケヤキ並木付近の地番図（図中の赤で示した範囲が概ねの天然記念物指定範囲）

資料-9　ケヤキ並木の周辺の交通量



平日(H18.8.7(月))



休日 (H18.8.6(日))

図 4-9-1　ケヤキ並木の周辺の交通量（昼間 12 時間 7：00～19：00）

（『平成 18 年　府中市内交通量調査』より抜粋、提供：府中市環境安全部地域安全対策課）